

資料 2

「薬学系人材養成の在り方に関する検討会」  
(第2回) R3.12.24

# 薬学教育モデル・コア・カリキュラム 改訂の経緯等について



高等教育局医学教育課

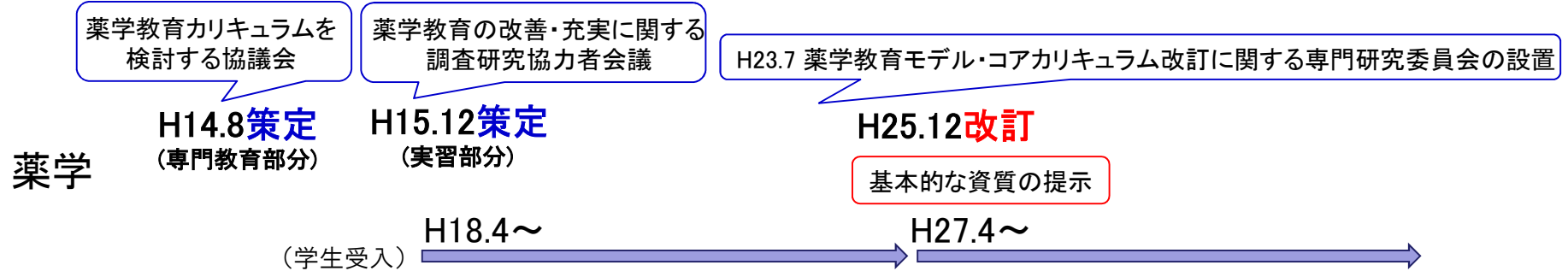


文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

# 医学、歯学、薬学、看護学のコアカリ策定・改訂の変遷

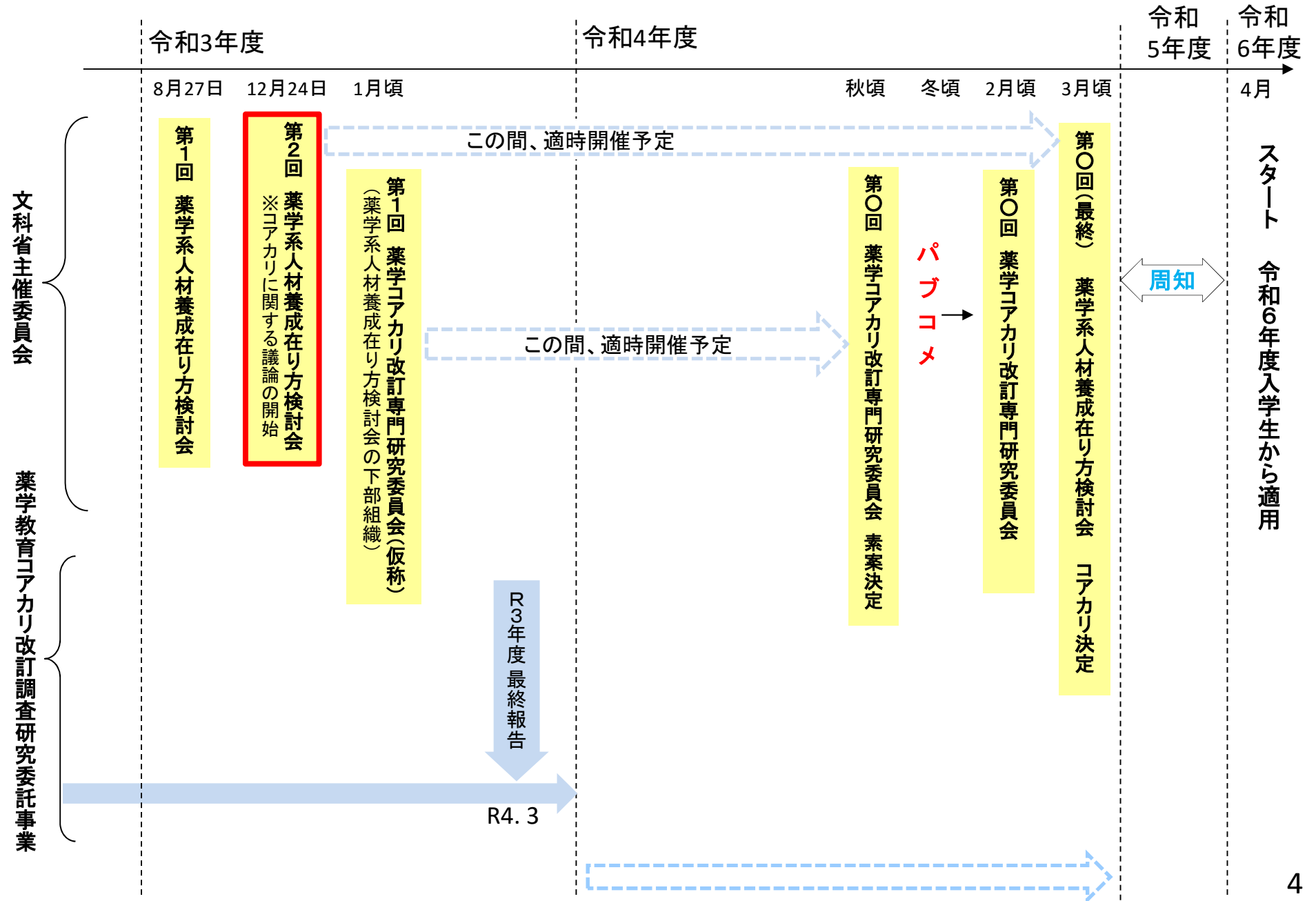


# 薬学教育モデル・コアカリキュラム 改訂スケジュール

年度	薬学	(参考) 医学・歯学
2019年度 (令和元年度)	調査研究委託(1年目) ※委託先:日本私立薬科大学協会	
2020年度 (令和2年度)	調査研究委託(2年目) ※委託先:日本私立薬科大学協会	調査研究委託(1年目)
2021年度 (令和3年度)	調査研究委託(3年目) ※委託先:日本私立薬科大学協会 コアカリ改訂検討開始	調査研究委託(2年目) コアカリ改訂検討開始
2022年度 (令和4年度)	コアカリ改訂完了	調査研究委託(3年目) コアカリ改訂完了
2023年度 (令和5年度)	(準備期間)	(準備期間)
2024年度 (令和6年度)	学生受け入れ	学生受け入れ

薬学・医学・歯学は同時改訂

# 薬学教育モデル・コアカリキュラム 改訂に向けたスケジュール（案）



# 薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に向けた調査研究

## テーマの趣旨

6年制薬学教育を基にした人材養成の更なる改善充実のため、薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に向けた課題の整理及び今後の対応を検討するための調査研究を行う。また、本調査研究においては、チーム医療の推進等の観点から、医学・歯学、看護学関係者等の参画のもとで、他職種も含めて医療人として共有すべき価値観を考察するなど、他職種とも整合性のとれた内容とする。

なお、薬学系人材養成を発展・充実させていくためには、6年制薬学教育を受けた者がその上の4年制博士課程へ進学し、高度医療人や薬学分野の研究者として活躍する人材の流れを推進することが極めて重要である。そのため、本調査研究においては、4年制博士課程教育の実態を詳細に把握・分析し、課題を整理するとともに、4年制博士課程につながる6年制薬学教育の課題を検証するなど、その改善充実に向けた考察を行う。

このように、6年制薬学教育について、学部及びその上の4年制博士課程に関する課題をトータルで検証し、改善充実のための考察を行うことで、その結果を次期薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に向けた検討に反映することを目的として、本調査研究を実施する。

## 調査研究内容

以下①②の内容を含む事業を実施するものとする。

- ① 6年制薬学教育の充実改善のため、薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に向けた課題及び今後盛り込むべき事項の整理
- ② 4年制博士課程の教育研究内容、入学者・卒業者の属性及び進路に関する分析と課題に対する改善策の提示

## 委託先・事業期間

委託先：一般社団法人 日本私立薬科大学協会  
事業期間：令和元年度～令和3年度

# 參考資料

# 薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂の体制



# 薬学教育モデル・コアカリキュラムの策定及び改訂の経緯

～平成25年度策定時～

## 平成21年2月

薬学系大学の人材養成の在り方に関する専門的事項について検討を行うため、文部科学省「薬学系人材養成の在り方に関する検討会」(永井良三座長)が発足。

## 平成23年7月

文部科学省「薬学系人材養成の在り方に関する検討会」の審議を踏まえ、薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂に関する恒常的な組織として「薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する専門研究委員会」(市川厚座長)を設置。

※薬学系人材の在り方に関する検討会→モデル・コアカリキュラムの改訂内容を決定

※専門研究委員会→専門的な調査検討等を行い、モデル・コアカリキュラムの改訂原案を作成

## 平成25年12月

文部科学省「薬学系人材養成の在り方に関する検討会」において、「薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する専門研究委員会」における検討を経て、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」(平成25年度改訂版)を策定。

### <ポイント>

○6年制の学士課程教育に特化した内容とする。

○従来の「薬学教育モデル・コアカリキュラム」および「実務実習モデル・コアカリキュラム」の2つを関連づけて一つのコアカリキュラムとして作成。

○「薬剤師として求められる基本的な資質」(10項目)を明示。

○「基本的な資質」の修得を前提とした学習成果基盤型教育(outcome-based education)の考え方に力点を置き構成。一般目標(GIO)とそれを達成するための到達目標(SBO)を明示。

○医療人としての薬剤師を養成するため「A基本事項」、「B薬学と社会」を充実。学生は6年間継続して学修。

○「F薬学臨床」は今後の薬剤師業務の進歩を想定し大幅に見直し。他の大項目は「F薬学臨床」と体系的に関連づけて教育できるよう見直し。

○教育課程の時間数の7割程度を目安にSBOをスリム化。残りの3割程度は各大学独自のカリキュラムを実施。



## 前回の改訂スケジュール（薬学）①

### ■平成21年2月13日

薬学系大学の人材養成の在り方全般を検討する「薬学系人材養成の在り方に関する検討会」を設置（高等教育局長裁定）

### ■平成23年7月26日

検討会の審議を踏まえ、コアカリの改訂に関する専門研究委員会を設置（高等教育局長決定）

### ■平成23年9月2日

専門研究委員会（第1回）において検討開始

### ■平成23年9～11月

医学教育、看護教育、薬被連、薬学関係団体（日本病院薬剤師会、日本薬剤師会、日本薬学会、薬学教育協議会）からヒアリング

### ■平成24年2月

日本薬学会及び専門研究委員会から各大学へアンケート調査

### ■平成24年9月～

日本薬学会の作業チームによる具体的な改訂原案の検討  
検討会及び専門研究委員会における原案の調整

## 前回の改訂スケジュール（薬学）②

- 平成25年4月  
薬学教育モデル・コアカリキュラム（中間まとめ）等に基づき、専門研究委員会から各大学等へアンケート調査
- 平成25年6月～8月  
検討会及び専門研究委員会におけるアンケートの確認  
日本薬学会の作業チームによるアンケートを踏まえた改訂の検討
- 平成25年9月13日  
薬学教育モデル・コアカリキュラム改定案 全国説明会
- 平成25年10月17日～11月6日  
パブリックコメント受付
- 平成25年12月2日  
専門研究委員会（第10回）において改定案とりまとめ
- 平成25年12月25日  
検討会にて、改訂モデル・コアカリキュラムの策定

# 薬学教育、医学教育、歯学教育、看護学教育の モデル・コア・カリキュラム対比①

薬学教育モデル・コア カリキュラム (H25年度改訂版)	医学教育モデル・コア・ カリキュラム (H28年度改訂版)	歯学教育モデル・コア・ カリキュラム (H28年度改訂版)	看護学教育モデル・ コア・カリキュラム (H29年度策定版)
薬剤師として求められる 基本的な資質	医師として求められる 基本的な資質・能力	歯科医師として 求められる 基本的な資質・能力	看護系人材として 求められる 基本的な資質・能力
A 基本事項	A 医師として求められる 基本的な資質・能力	A 歯科医師として 求められる基本的な 資質・能力	A 看護系人材として 求められる基本的な 資質・能力
B 薬学と社会	B 社会と医学・医療	B 社会と歯学	B 社会と看護学
C 薬学基礎	C 医学一般	C 生命科学	C 看護の対象理解に必要な 基本的知識
D 衛生薬学	D 人体各器官の正常構造 と機能、病態、診断、 治療	D 歯科用医療機器（歯科 生体材料、歯科材料・ 器械）	D 看護実践の基本となる 専門基礎知識
E 医療薬学	E 全身におよぶ生理的変 化、病態、診断、治療	E 臨床歯学	E 多様な場における看護 実践に必要な基本的知 識
薬学臨床 F ※コアカリキュラムとは別に 「薬学実務実習に関するガイド ライン」を平成27年2月に策定	F 診療の基本	F シミュレーション実習 (模型実習・相互演習 (実習))	F 臨地実習
G 薬学研究	G 臨床実習 ※「診療参加型臨床実施実習ガ イドライン」(参考例)含む	G 臨床実習	G 看護学研究

## 薬学教育、医学教育、歯学教育、看護学教育の モデル・コア・カリキュラム対比②

薬剤師として 求められる基本的な 資質	医師として 求められる基本的な 資質・能力	歯科医師として 求められる基本的な 資質・能力	看護系人材として 求められる基本的な 資質・能力
薬剤師としての心構え	プロフェッショナリズム		プロフェッショナリズム
患者・生活者本位の視点	医学知識と問題対応能力		看護学の知識と看護実践
コミュニケーション能力	診療技能と患者ケア		根拠に基づいた課題対応能力
チーム医療への参画	コミュニケーション能力		コミュニケーション能力
基礎的な科学力	チーム医療の実践		保健・医療・福祉における協働
薬物療法における実践的能力	医療の質と安全の管理		ケアの質と安全の管理
地域の保健・医療における実践的能力	社会における医療の実践		社会から求められる看護の役割の拡大
研究能力	科学的探究心		科学的探究心
自己研鑽	生涯にわたって共に学ぶ姿勢		-
教育能力	-		-

# 医学教育モデル・コア・カリキュラム 平成28年度版で示された留意事項

## ○医学・歯学における「基本的な資質・能力」の共有

今後、**医師以外の各職種**においても、モデル・コア・カリキュラム等の策定や改訂が行われると想定されるが、**チーム医療等の推進の観点から**、例えば本改訂において**歯学教育との間で「求められる基本的な資質・能力」**において**試みた**ように、**医療人として共有すべき価値観を共通で盛り込む**など、卒前教育の段階でより整合性のとれた内容となることが重要と考えられる。このため、文部科学省におかれては積極的な調整を図られたい。

こうした医療人における卒前段階の水平的な協調を進めることは、上記の卒前・卒後の一貫性のある教育に基づく垂直的な協調と合わせ、我が国の医学・医療に対する国民の期待に応えるものである。

# 歯学教育モデル・コア・カリキュラム 平成28年度版で示された留意事項

## ○医学・歯学における「基本的な資質・能力」の共有

今後、**歯科医師**以外の各職種においても、モデル・コア・カリキュラム等の策定や改訂が行われると想定されるが、チーム医療等の推進の観点から、例えば本改訂において**医学教育**との間で「求められる基本的な資質・能力」において試みたように、医療人として共有すべき価値観を共通で盛り込むなど、卒前教育の段階でより整合性のとれた内容となることが重要と考えられる。このため、文部科学省におかれては積極的な調整を図られたい。

こうした医療人における卒前段階の水平的な協調を進めることは、上記の卒前・卒後の一貫性のある教育に基づく垂直的な協調と合わせ、我が国の**歯学・歯科医療**に対する国民の期待に応えるものである。

## 【参考】医学モデル・コア・カリキュラム 改訂に向けた基本方針（案）

1. 20年後以降の社会も想定した資質・能力の改訂
2. アウトカム基盤型教育のさらなる展開(学修目標の再編成と方略・評価の整理)
3. 医師養成をめぐる制度改正等との整合性の担保に向けた方策の検討(国家試験、共用試験の公的化と医学生の医業の法的位置付けを踏まえたシームレスな参加型臨床実習の推進、国際標準への対応等)
4. コアカリのスリム化の徹底と読み手や利用方法を想定した電子化
5. 研究者育成の視点の充実
6. 根拠に基づいたコアカリ内容
7. 歯学・薬学教育コアカリとの一部共通化

## 【参考】歯学モデル・コア・カリキュラム 改訂に向けた基本方針（案）

1. 「基本的な資質・能力」の実質化
  - ①アウトカム基盤型の深化に向けた検討  
(資質・能力と学修目標の関係性の整理)
  - ②社会ニーズを踏まえた学修項目の見直し
  - ③診療参加型臨床実習の充実による資質・能力の向上
  
2. 超高齢社会を踏まえ修得すべき基本的事項の再整理
  
3. 方略・評価の追加  
(推奨事例の揭示)
  
4. 医学教育、薬学教育のモデルコアカリキュラムとの一部共通化
  
5. 総量の適正性の検証